【事業名】鳥海山周辺湖沼群におけるコシノハゼ等の絶滅危惧種の保全（山形県）　【団体名】山形県希少野生動物調査会

令和３年度　生物多様性保全推進支援事業
実績報告書別紙10－６

事業の背景・目的

鳥海山周辺の湖沼群は地域固有の水生の絶滅危惧種が多く生息する水域とされ、県では里山環境保全地域に指定されているが、具体的な保全対策は何も行われていない。一方、温暖化に起因する降雪量の減少と渇水、大規模な災害や山林の荒廃による水域への土砂流入などにより、生息環境が悪化し、水生の絶滅危惧種の個体数が減っている可能性がある。そこで、地域固有種コシノハゼの生息状況を調べ、またコシノハゼと同所的に生息する他の希少な魚類在来種をリストアップして、コシノハゼとこれら希少種の保護体制を整える。

事業の内容

・実績報告書（別紙10－３）を基に、実施した事業結果の概要を簡潔に記載。事業が複数ある場合や、複数年度にわたる場合には、枠囲みを用いるとわかりやすい。

令和元年度　環境DNAによるコシノハゼ生息調査
- コシノハゼが生息する可能性のある湖沼水の環境DNAを抽出して、コシノハゼ特異的増幅DNAから生息地を推定した。
- 同所的に生息する他の魚類希少種の生息状況も調査した。

令和2年度　コシノハゼ集団の遺伝的多様性調査と保護区絞り込み
- 体表粘液微量DNA分析により、コシノハゼ集団の遺伝的多様性を推定し、保護区候補地を2ヶ所に絞り込んだ。
- 保護区候補地で同所的に生息する他の希少種の生息状況を確認した。

令和3年度　保護区候補地管理団体との交渉・絶滅危惧種保全のための広報活動
- DNA分析による種同定で生息種リスト確定。
- 保護区候補地2ヶ所の管理団体と交渉、協力要請。
- 県関連部署と保護区設置について調整。
- 若手主体の保全団体関係者を招き、保護区候補地で観察会実施。

得られた成果

・実績報告書（別紙10－３）を基に、・事業の成果、活動継続の見通し、事業終了後の展開等を簡潔に記載（400文字以内）

DNA分析により、コシノハゼ等の絶滅危惧種の保護区候補地各２ヶ所に生息する希少種リストを確定した。共同研究者とともに、コシノハゼについて１報、シナイモツゴ日本海型等について２報の論文を準備中。保護区候補地の管理団体、県関連部署に、生息状況と保全に関する資料を配布し、協力要請した。県関連部署から保護区設置の了承を得た。オオクチバスなど 外来種の密放流や絶滅危惧種の密漁は、保護区候補地１の管理団体にも不利益を生ずるので、団体が監視体制を強化することになった。また、違法行為禁止の看板を湖沼から離れた場所に設置するか検討中。保護区候補地２の管理団体は「熊出没中注意！」の看板を増設して外部侵入者を防ぎ、団体関係者が監視することになった。若手主体の保全団体を招いた観察会で、コシノハゼ等の絶滅危惧種の生息状況を観察し、保全について理解を得た。若手を募って保全活動の継承をはかる。

コシノハゼ等絶滅危惧種の保護区候補地観察会